

ほおのきBいせき  
朴ノ木B遺跡

所在地 豊田市下山田代町朴ノ木地内  
(北緯 35 度 1 分 29 秒  
東経 137 度 18 分 56 秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発施設用地  
造成事業

調査期間 平成 25 年 12 月～平成 26 年 2 月

調査面積 1,000 m<sup>2</sup>

担当者 成瀬友弘・石井香代子

調査経過 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成に伴う事前調査として、愛知県企業庁より委託を受けて実施した。



調査地点 (国土地理院 1/2.5 万地形図「東大沼」)

立地と環境 本遺跡は、南北に走る狭い谷の最奥部の東側斜面に立地しており、斜面の緩くなった部分を中心に立地をしている。調査前の状況は主に杉を中心に植林された山林であった。標高は海拔 440m前後である。周辺の遺跡としては北へ約 0.1km の所に朴ノ木 A 遺跡、0.4km の所に菅ノ口遺跡、東に 0.1km に柿根田遺跡がある。

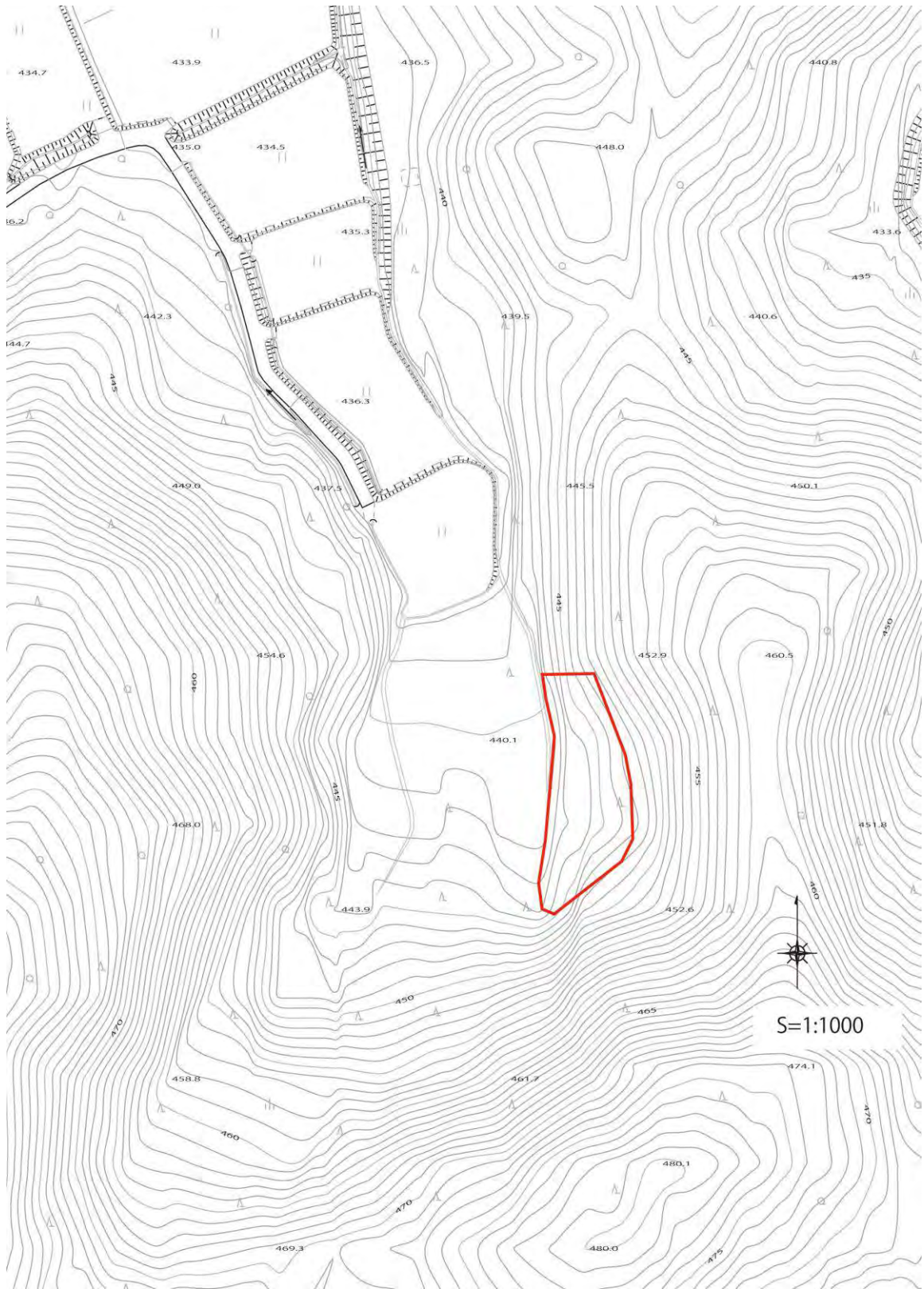
調査の概要 今回の調査では、縄文時代、古代、近代の遺構・遺物が確認されている。

縄文時代の遺構は確認されていないが、石鏃や有舌尖頭器などが出土している。

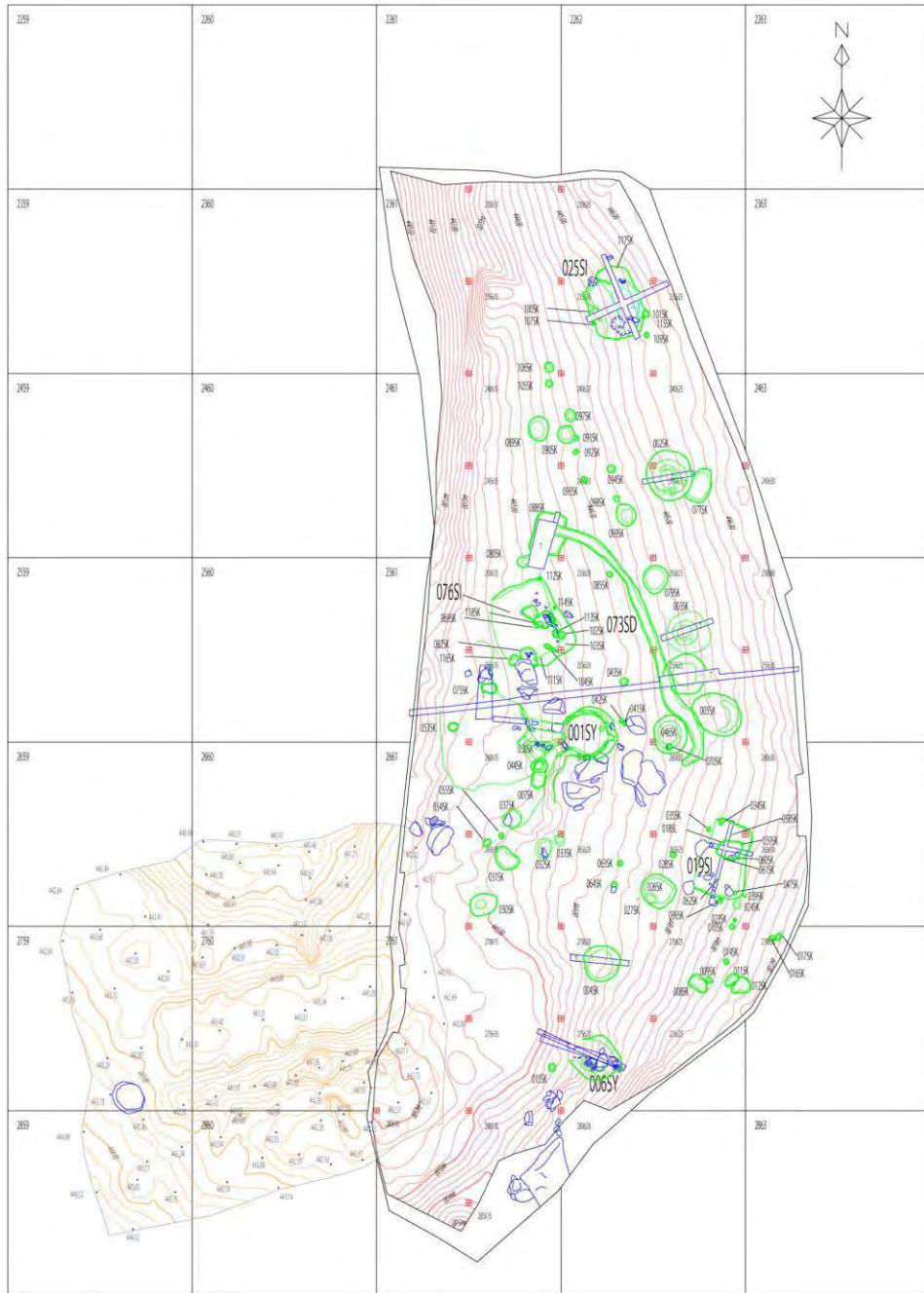
古代の遺構は、傾斜の緩くなっている部分を中心に竪穴建物や溝、土坑などの遺構の展開が認められている。竪穴建物は 019SI、025SI、076SI の 3 棟が検出され、いずれも灰釉陶器、土師器などの遺物を伴い、焼土や炭の広がり確認されている。中でも 076SI は、斜面上部に位置する 073SD によって雨水の流入を食い止められる場に構築されており、板石を立ててコの字に組んだカマドと思われるものも検出されている。また、床面近くからは土師器甕や灰釉陶器の瓶類、碗・皿、須恵器甕など多くの遺物が出土している。この他にも 001SY 西側の平場から古代の遺物が数多く出土しており、001SY 構築時に削られなかった 056SK は焼土を伴い、土師器甕なども出土することなどから竪穴建物の一部である可能性も考えられ、この付近にも建物が展開していたと思われる。

近代の遺構・遺物は炭焼き窯関連の遺構となる。炭焼き窯は、簡易な土坑を掘っただけの伏焼きタイプのものが 5 基、煙道のつくタイプが 2 基 (001SY・006SY) 確認されている。001SY は焚き口と窯口を分けるタイプのもので類似の形状のものとしては昭和 17 年に考案された農林 1 号窯がある。006SY も焚き口側が崩れているため不明瞭であるが同じタイプの可能性が考えられる。また 001SY 西側は作業スペースとして焚き口周辺を削平し、平坦面を作り出しており谷側には土留めのように石が並べてあった。遺物としては製炭用温度計や一銭銅貨などが出土している。

まとめ 今回の調査の結果、古代の複数の竪穴建物が確認されたことにより、古代の一時期に居住域として機能していたことが確認された。これまでのこの下山地域での調査では古代の遺物は出土し、生活の痕跡はあるものの明確な居住域は確認できていなかった。今回確認できたことで、周辺の遺跡も含めて山間地での土地利用などを含めた人々の生活実態を考えるうえで良好な資料を得ることができた。(成瀬友弘)



調査区位置図 (1 : 1,000)



遺構平面図 (1 : 400)



朴ノ木遺跡全景（南より）



019SI 完掘状況（北より）



019SI 遺物出土状況



025SI 検出状況（東より）



076SI 完掘状況（南より）



076SI 遺物出土状況（北より）



001SY 検出状況（東より）



006SY 検出状況（西より）